

小田川の朝（八高橋より）



# 道

2023年1月1日  
(第90号)

この三年間、人々を苦しめ続けているコロナウイルス。二〇二二年の暮れには僕も感染した。微熱、喉痛、倦怠感。二日後には同居の兄も発症し腫瘍治療後の肺に炎症を起す。その病院受診に重い体で付き添い、四時間待ったが兄の入院は叶わず自宅に戻ったのが夜十時。冷えた体を温めようと燗酒を口に含んだら辛いだけ。酒が不味い。▼「コロナ」は私たちのライフスタイルを変えた。大事だと思ってきたものが止められた。人と人の新しい繋がり方を知った。だからなのか、傍らに居ることの大切さが分かる。▼ところで、僕には、へケアなどについて学び語り合う〈場〉があり、これが人生の一部のようになっていた。「コロナ」はここにも楔を打ち込んだ。「へケア」を考える会「岡山」が消えた。「へケア」カフェ「まび」は百回を迎えるのを機に休止となる。残る「へケア」を考える会は、当面、オンライン＋リアルで開催していくが、このありかたも変わらざるを得ない。▼いずれ「コロナ」は明ける。明けて元に戻るものと戻らないものがあるはずだ。また、いつか新しい別のウイルスが人類を襲うかもしれない。これからどう生きるか。大切なことは、「絶対」に無くしてはならないものを見分ける「能力を備えていることだと、僕が勝手に師と仰ぐ鷺田清一さんが述べている。※ ▼ そうだ。酒の旨さを見分けることができるかどうかで、僕のコロナ回復具合をはかろう。うん？

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

電話：090-5366-1497

メール：michi-care@outlook.jp

ホームページ：https://michi-care.jimdo.com/

〈道〉LINE：https://lin.ee/zCG7Iyp

林道也



遠田 椋の木



▼この〈道〉通信は、「LINE 公式アカウント」でも配信します。上の URL、または、左の QR コードから「友だち追加」していただければ、あなたの「LINE」に届きます。▼ホームページにも掲載しています。

※『語りきれないこと——危機と傷みの哲学』鷺田清一著（角川 one テーマ 21 新書）82 頁